

vol. **07** 対談編  
地域の枠を越えた  
人材の力で  
新たな文化を創る

Nagai Farm Business Style Note

永井進の  
農場スタイル  
ノート

信州・永井農場の経営スタイルを綴るこのコーナー。前回は「人材づくりとは理念をともにするパートナーづくり」と題し、永井農場の人材育成論をお伝えした。今回はその内容を具体的に示すケースとして、永井農場から独立した小山英明氏との対談をお届けする。

**食**の一端として  
地域に根差したワインを

永井 今年4月、永井農場からワイン部門が独立し、新会社立ち上がりしました。代表を務めるのは、ワイン部門のプロジェクトリーダーだった小山英明さんです。

この連載の第3回で紹介したように、まとまった面積の耕作放棄地の話をいただいたのが、ワインプロジェクトの始まりでした。その時偶然にも、長野県内のワインメ

ーカーを辞めたばかりの小山さんと知り合うことができました。

小山 そうですね。炭焼き職人の知人に永井さんを紹介してもらって。僕はワイン作りをやって一生暮らしていきたいと思って、山梨や長野のワインメーカーで経験を積んできました。永井さんと出会ったのは、ちょうど会社を辞めた頃だったんです。

永井 小山さんのワインは、長野県の実産地呼称管理制度でも選ばれていましたね。初めて会った人

にも、「小山さんのワインなら知ってますよ！」と言われることがありますが、大変な評価だったのですね。ワイン作りには農産物を生産する喜びと、そこからもう一步、お酒を作るという喜びがありますよね。夢があるし、その広がりも大きい気がします。

小山 ワインというのは、ただの農産物の加工品ではなくて、食事の一端なんです。ワインを愛して飲むということは、食生活が豊かになるということ。おいしいワ





永井 進 / Susumu NAGAI

1971年、長野県生まれ。(有)永井農場専務取締役。長野県東御市で酪農と稲作の規模拡大に取り組む農場発展の可能性を模索している。  
<http://www.nagaifarm.co.jp/>

インを飲めば、おいしい料理が食べたくなりますが、長野には素晴らしい食材がたくさんあるでしょう。ワインとは、地域の食材を光り輝かせるものでもあるんです。

永井 小山さんと出会った当初、そうした「地域に根付くワインを作りたい」という思いに、僕は大切に共感しました。地域の農家と共に発展し、地元の人に飲んでもらいたいという思いは、このプロジェクトを始めた時からあります。  
小山 いつか僕らのワイナリーができた時、東御市におけるワイナリーの先駆者、玉村豊男さんのワイナリーとの点と点がつながって、一本の通りができる。やがてその景色のなかにレストランが生まれ、野菜や肉、乳製品などを通じて近隣農家ともつながりを持っていく。会社名の「リュードヴァン（フランス語でワイン通りの意）」とは、

### 新規参入者を支援するの使命感の企業としての使命

まさにそんな暮らしが訪れることを願ってつけたものです。

永井 東御市はブドウの栽培適地として注目されている地域だけに、腕のある技術者がきてくれることは念願でした。

小山 伝統ある巨峰の町ですから、僕みたいな農業の素人がブドウを栽培すると、「デタラメやっぺらあ」と笑われるのが普通です。にもかかわらず、農業のプロである永井農場が受け入れてくれたことは嬉しかったですね。

永井 小山さんに対しては、働く環境というか、後方から支援するという形をとっていますから。

小山 よく地域に根差さないといけないというけど、ここで生まれて、ここで中学校を卒業しないと、同じようには見てくれないと思うんです。それだけに、今のブドウ畑は永井農場あつてのものという思いは強く感じますね。地域の顔役の人に話を通したほうがいいとか、永井さんは僕が知らない世界

のアドバイスをしてくれる。それは本当にありがたいことです。  
永井 新規の方はそこが大変なんです。行政が土地を斡旋してくれ

たりはしますけど、なかなか難しい農家の現実がある。僕はそれが円滑に進むように支援して、独立してもらおうのが、地域の農業者としての役割だと思っています。

小山 僕はもうブドウを植えたので、ここからは逃げも隠れもできません。だからここを魅力的な町にしていくことも、自分の大切な仕事だと思っています。僕はこの地域が、食文化を提案できる町になればいいと思っていますよ。

永井 これから先、永井農場のチームと小山さんのワインでコラボレーションしたり、そんな機会がどんどん出てくると思いますよ。

小山 僕が目指している世界を、僕じゃない人が違うところでも一緒に目指している状況は楽しい。だから、ほかのワイナリーやブドウを作る農家が、後に続いてくれ

たらないと思っと思っています。いくつものメーカーが競合しながら共業している地域にしたいんですよ。そんなところには必ず食文化が付きまといってくる。だから永井さんには、さらに新しい人材を見つけ

てきてもらいたい(笑)。  
永井 ワイナリーができて、地元の人々も楽しんで、お互いを高める人々が集まってきたら最高ですね。

小山 ええ。僕らが豊かな楽しい生活をすれば、都会の人だって憧れてくるようになるんです。最近グリーンツーリズムとかいいですけど、僕らの生活に魅力がなければ、農村にきたって実際はつまらないんですよ。決して金銭面だけではない、豊かな暮らしをここで築いていきたいですね。

永井 いいパートナーとやっつけているというのは嬉しいことです。これからもよろしく願います。



小山 英明 / Hideaki KOYAMA

1968年、千葉県生まれ。ワインメーカーで醸造責任者を務めていたが、納得のいくワインを作るため、2005年に永井農場に入社。2008年、(株)リュードヴァンとして独立。  
<http://www.nagaifarm.co.jp/blog/wine/>

たらいと思っと思っています。いくつものメーカーが競合しながら共業している地域にしたいんですよ。そんなところには必ず食文化が付きまといってくる。だから永井さんには、さらに新しい人材を見つけ

てきてもらいたい(笑)。  
永井 ワイナリーができて、地元の人々も楽しんで、お互いを高める人々が集まってきたら最高ですね。

小山 ええ。僕らが豊かな楽しい生活をすれば、都会の人だって憧れてくるようになるんです。最近グリーンツーリズムとかいいですけど、僕らの生活に魅力がなければ、農村にきたって実際はつまらないんですよ。決して金銭面だけではない、豊かな暮らしをここで築いていきたいですね。

永井 いいパートナーとやっつけているというのは嬉しいことです。これからもよろしく願います。